

RFMD ニュース



rfmd.com

会社連絡先:

RF Micro Devices Inc.  
Brian K. Cockman, Public Relations Specialist  
7628 Thorndike Road  
Greensboro, NC 27409-9421, USA  
電話: +1 (336) 678-8945  
[bcockman@rfmd.com](mailto:bcockman@rfmd.com)

## RFMD社、DigRF3Gへの完全適合を実証し デジタル無線インタフェースのリーダーシップを継続

### DigRF3G 無線インタフェースによる HSPA トランシーバ・ソリューション

バルセロナ(スペイン)、2007年2月14日: 移動通信駆動用各種アプリケーション向けの高性能無線システム/ソリューションを設計、製造し業界をリードする RFMD 社(ナスダック:RFMD)は本日、今後の HSDPA/HSUPA/EDGE 端末向けトランシーバ・ソリューションに DigRF3G 無線インタフェースを採用する意向を明らかにした。

DigRF3G は、次世代 3G マルチモード、マルチバンド端末の市場投入リードタイムの短縮、コストダウン、小型化、システム・インテグレーションの容易化を目的として携帯端末のトランシーバ回路とベースバンド回路とのインタフェースに利用される業界標準のデジタル・インタフェースで、DigRF3G 標準は半導体産業、携帯端末メーカー、計測器メーカーなどの業界を代表する会社によるコンソーシアムが共同でサポートする標準規格。

RFMD 社はデジタル無線インタフェース開発のリーダーであり、2002 年の POLARIS™ 1 の導入以降、その集積度の高いトランシーバ製品でデジタル・インタフェースを提供している。同社は DigRF ワーキング・グループの設立当時のメンバーで、DigRF3G 仕様の開発で中心的な役割を果たしてきた。

3G マルチモード端末に DigRF3G 標準が採用されると広範囲なオプションを含めた無線インタフェースの標準化が可能となり、あらゆるレベルの携帯端末に対応可能な 3G マルチモード端末の標準化への道が開かれることになる。そのため、DigRF3G は 3G の利用と普及のための主要な原動力として期待されている。

「当社は既に DigRF への完全適合を実証し、現在はベースバンド側パートナーとの間で DigRF3G 適合チップの検証を行っています。この評価、検証プロセスは、主要携帯端末メーカーによる将来の基準設計や HSDPA、HSUPA、EDGE の機能を単一のシリコン・チップに組み込む当社の次世代 HSPA トランシーバ・ソリューションの開発に DigRF3G を組み込むための重要なステップとなります。」と RFMD 社のシステム事業ユニット担当 Kris Rausch 事業部長は語る。

RFMD 社の HSPA トランシーバはプログラミング・モデルを大幅に単純化し、インテグレーション作業が容易に行えるよう設計されている。従来無線系とベースバンド系のメーカー間の緊密な連携を必要としていた複雑なタスクも RFMD のトランシーバ・ソリューションにはすべて完全に組み込まれている。この実装レベルの

高度化により、これまでベースバンドと端末のインテグレーション時に必要だったタスクも不要となり、容易な実装市場投入までのリードタイムが短縮され、同時に端末メーカーの開発費や労力も大幅に節約できる。

**RFMD 社について** RF Micro Devices, Inc. (NASDAQ RFMD)社は移動通信の主要アプリケーション向けに高性能な無線システム/ソリューションの設計、製造を行う会社で、この業界のグローバル・リーダー。RFMD 社のパワーアンプ、送信モジュール、携帯電話用トランシーバ、およびシステム・オン・チップ (SOC) ソリューションは現在および次世代の携帯端末、基地局、無線ローカルエリアネットワーク (WLAN)、無線パーソナルエリアネットワーク (WPAN)、全地球測位システム (GPS) などの最新機能をサポートし、全世界的なモビリティの向上と接続性の拡大に寄与するもの。最先端の半導体技術による幅広い製品ラインと無線システムの豊富な経験で定評のある RFMD 社は、現在および将来の市場要求を満たす最新無線機能のサプライヤーとして、世界中の主要な移動通信機器メーカーから選ばれている。

ノースカロライナ州グリーンズボロに本社を置くRFMD社はISO 9001 およびISO 14001 の認証取得済みのメーカーで、世界各地にエンジニアリング、設計、販売、サービスの拠点を持つ。RFMD社はRFMD銘柄で米ナスダックグローバルセレクト市場に上場しています。なお詳しい情報はRFMD社のホームページ、[www.rfmd.com](http://www.rfmd.com)に紹介されている。

このプレス・リリースには、1995 年米国私募証券訴訟改革法 (Private Securities Litigation Reform Act) がその免責条項として定める「将来的な予測」が含まれています。この「将来的な予測」には当社の計画、目的、説明、主張などについて、またはそれ以外についての記述が含まれていますが、これらの記述は歴史的な事実ではなく、通常は「可能」、「必要」、「予測」、「期待」、「予定」、「計画」、「推測」、「確信」、「推定」、「予想」、「可能性」、「継続」などの用語や類似の用語とともに使用されています。またこれらとは別の表現で「将来的な予測」が記述される場合もあります。この文書に含まれている「将来的な予測」の記述は現時点における経営陣の判断や期待を表していますが、実際の成果や出来事、業績などはこれら記述で表現されたり暗示されたりした内容とは実質的に異なる場合もあります。当社は米国連邦証券取引法により要求される場合を除き、これら「将来的な予測」の記述内容を改訂したり、あるいはその記述の改訂を公表したりする意図を持っていません。RF マイクロデバイセス社の事業には多くのリスクや不確実性が内在しており、その内容には四半期毎の経営成果の変動、無線関連市場の発展や成長率、ウェハ製造施設、分子線エピタキシー施設、組み立て施設、試験、テープ、リール施設など各種製造施設の稼働に関するリスク、熟練技術者や開発リーダーを採用・確保する当社の能力、生産歩留りの変動、革新的技術によりコストを削減し正味利益率を改善する能力、新製品を市場に投入する能力、顧客の在庫センターを通して行う委託販売への依存性、製品需要に即応したタイムリーな生産能力の調整を行う能力、限られた顧客への依存性、サードパーティへの依存性などが含まれています。上記以外も含むこれらリスクや不確実性については米国証券取引委員会の様式 10-K に従った RF マイクロデバイセス社の最新アニュアルレポートの中で説明されていますが、このような不確実性のため、これら記述の表現や暗示による内容と実際の成果や出来事、業績とは実質的に異なる場合があります。

RF MICRO DEVICES® およびRFMD®はRFMD, LLCの商標である。その他の商品名、商標、登録商標はそれぞれの所有者の財産である。

###